

早稲田大学 大学院法学研究科
2023年度 修士課程入学試験問題(国内受験)
【専修科目】

民事法学専攻

商法

次の各問から一問を選び、答えなさい。

1. 株式併合を用いたキャッシュ・アウトをめぐる法的問題について論じなさい。
2. A 株式会社は、普通株式のみを発行している上場会社である。A 社の株式を、B 社が市場で買い集めて、既に A 社発行済株式の 40% を B 社が所有している。A 社の経営者は、B 社による A 会社支配を、なるべく費用のかからない方法で阻止したいと考えている。具体的には、B 社の持株比率を 33% 以下に引き下げ、それ以上の持株比率の引き上げを許さないような防衛策の導入を望んでいる。A 社経営者から買収防衛策について相談を受けた弁護士としては、いかなる防衛策を提案することが考えられるか。
3. 海上運送において、荷送人がいわゆる「補償状 (L/I)」を差し入れて、運送人から無留保船荷証券 (clean B/L) の発行をうけるという慣行 (補償状慣行) が世界的に行われている。この慣行が必要とみられる実務的な背景を説明して、この慣行から生じる弊害に対する法的な対応の可能性を論じなさい。

答案の書き方 (横書 / 縦書)

六法全書の使用を (認める / ~~認めない~~)